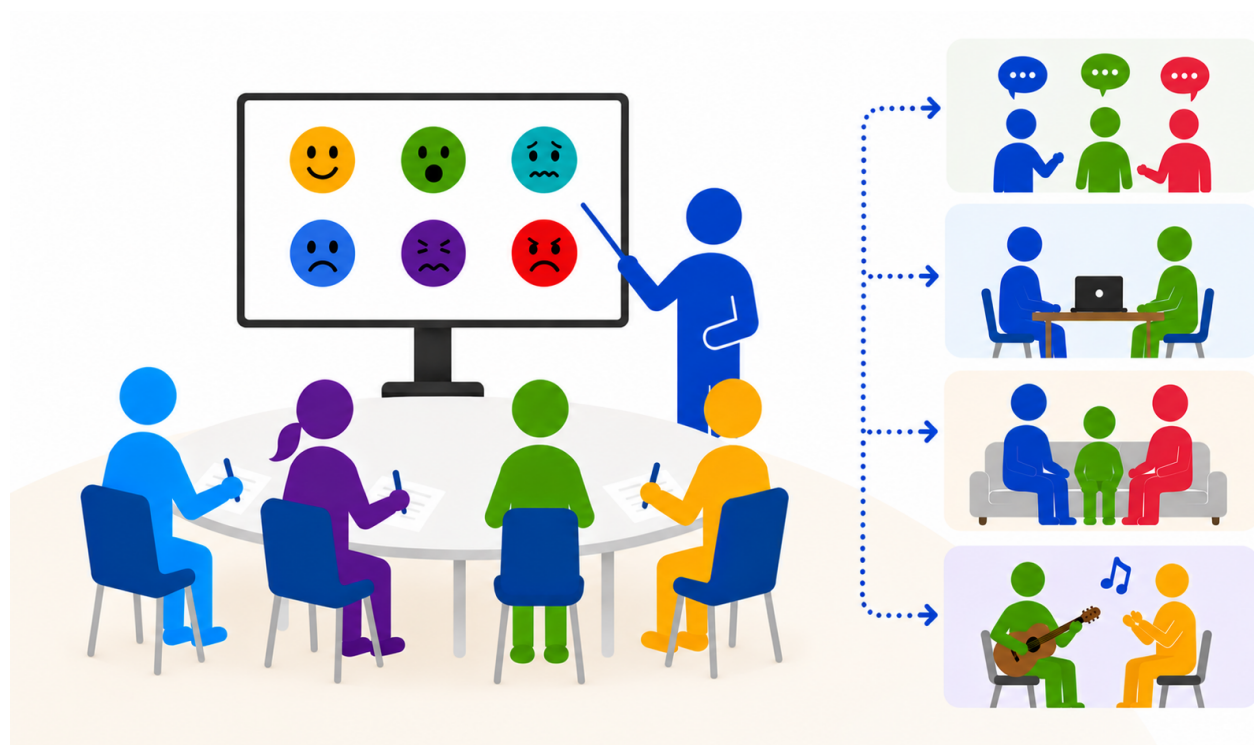


自閉スペクトラム症成人の生活機能を改善 —社会認知スキルトレーニング日本版の開発—

概要

京都大学大学院医学研究科精神医学教室の大塚貞男 特定助教（研究当時、現：兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授）、村井俊哉 教授らの研究グループは、米国で統合失調症向けに開発された社会認知スキルトレーニング（SCST）の日本版治療プログラムを作成し、統合失調症や自閉スペクトラム症（ASD）をもつ成人を対象にランダム化比較試験を実施しました。社会認知とは、他者の感情や意図を理解し、人との関わりに役立てる能力です。臨床試験の結果、統合失調症と ASD の両方において表情から感情を読み取る能力の改善が示されました。また、本研究では SCST を ASD 成人に初めて応用し、表情の読み取りに加えて、他者の心を推測する能力である「心の理論」の改善傾向と、日常生活や社会生活に関わる全般的機能の改善も認められました。本成果は、社会認知への心理学的支援が ASD をもつ成人の生活機能の向上につながる可能性を初めて示したものです。今後、さまざまな精神疾患に共通する社会認知の困難に対する疾患横断的な治療プログラムと、各疾患や個人の特性に応じた個別化支援を組み合わせた統合的な治療法の開発が期待されます。

本研究成果は、2026 年 7 月 22 日に国際学術誌 *Psychiatry and Clinical Neurosciences* にオンライン掲載されました。



社会認知スキルトレーニングのイメージ図：他者の感情や意図を理解するための社会認知スキルを練習し（左側）、社会生活場面で活用することで（右側）、生活機能や生活の質の向上を目指します。

イラスト作成：大塚貞男、OpenAI ChatGPT（GPT-5、画像生成機能）を用いて作成

1. 背景

統合失調症と自閉スペクトラム症（ASD）は、中心的な症状や発症の時期が明確に異なる疾患ですが、どちらも社会認知の困難を示すことが知られています。社会認知とは、他者の感情や意図、心の状態などを理解し、人との関わりに役立てる能力です。社会認知の困難は、統合失調症と ASD のどちらにおいても、対人関係や日常生活、社会生活における難しさと深く関わることで報告されています。

これまで、社会認知の改善を目的とした心理学的治療プログラムは、主に統合失調症を対象として開発されてきました。しかし、統合失調症をもつ日本人への有効性は確認できていませんでした。また、社会認知の困難は ASD の中心的な特徴ですが、ASD をもつ成人の社会認知に対する心理学的支援の効果を検証した研究はまだ少ない状況です。ASD の特徴は発達早期からみられますが、大人になってから日常生活や社会生活に支障を来し、成人期に ASD と診断される人が増えています。そのため、ASD をもつ成人の生活機能や生活の質の向上につながる効果的な支援方法を確立することは、重要な社会的課題です。

そこで本研究では、米国で統合失調症向けに開発された社会認知スキルトレーニング（SCST）^{*1}の日本版治療プログラムを作成し、統合失調症をもつ日本人における有効性と、ASD をもつ成人への応用可能性を検証しました。また、両疾患における効果の共通性と相違を調べることで、疾患横断的治療^{*2}の妥当性や、各疾患の特性に応じた個別化支援の必要性について検討しました。

2. 研究手法・成果

SCST の効果検証には、ランダム化比較試験^{*3}という厳密な研究手法が用いられました。この臨床試験には、統合失調症か ASD、または両方の診断を受けている成人 47 人が参加しました。参加者は、通常の治療に加えて SCST を受ける介入群と、通常の治療を継続する対照群に無作為に割り付けられました。参加者は、京都大学医学部附属病院、まいるクリニック、京都府立洛南病院のいずれかの精神科デイケアの利用者でした。SCST は、各医療機関デイケアにおける集団療法プログラムとして、週 1 回 2 時間の頻度で 6 週間にわたって実施され、治療には複数名の参加者と治療者（作業療法士、公認心理師など）が参加しました。効果を検証するために、介入群と対照群の両方に対して、SCST 実施前、6 回の SCST 終了後、SCST 終了から 6 週間後（追跡時）の 3 時点で、社会認知や生活機能などに関わるさまざまな心理検査を行い、検査結果の変化を検討しました。

その結果、統合失調症と ASD の両方で、表情から感情を読み取る能力の改善が示されました（図 1）。また、ASD では、他者の心の状態を推測する、より高度な社会認知能力である「心の理論」^{*4}の改善傾向も示されました。SCST 終了から 6 週間後にも、それらの社会認知の改善は維持されており、さらに ASD をもつ成人では、日常生活や社会生活に関わる全般的機能^{*5}の改善も認められました。また、治療プログラムへの出席率は高く、治療に対する参加者からの評価も良好でした。

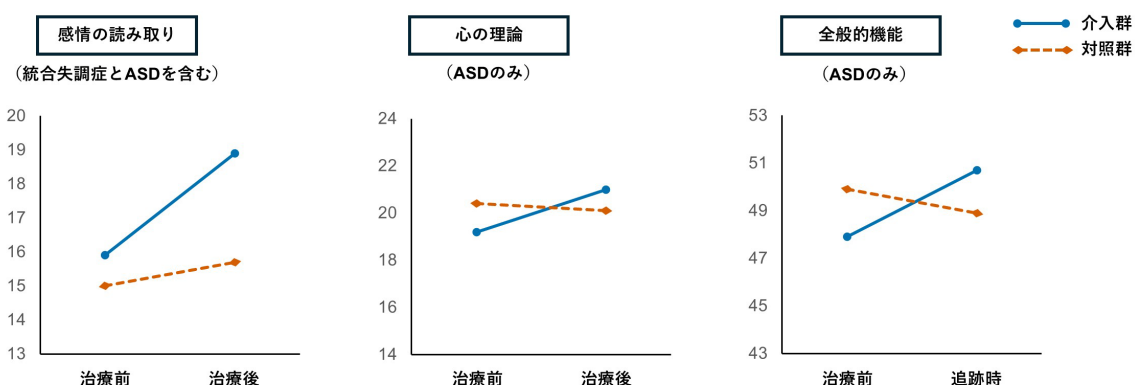


図 1. SCST の効果：介入群と対照群における治療前後の変化（全般的機能は追跡時と比較）

本研究では、米国で統合失調症向けに開発された SCST が、統合失調症をもつ日本人に有効であり、さらに ASD をもつ成人にも応用可能であることが示されました。特に、社会認知への心理学的支援が ASD をもつ成人の生活機能の向上につながることを、ランダム化比較試験により初めて示した点に大きな意義があります。

3. 波及効果、今後の予定

本研究では、表情から感情を読み取る能力が統合失調症と ASD の両方で改善し、社会認知の困難に対する疾患横断的な治療法として SCST が有用であることが示されました。一方で、心の理論や全般的機能の改善は、ASD をもつ成人でのみ認められました。この結果は、社会認知の困難には診断カテゴリーを超えて共通する部分がある一方で、疾患ごとに異なる特徴やメカニズムが存在することを示しています。今後は、統合失調症や ASD を含むさまざまな精神疾患に共通する社会認知の困難に対する疾患横断的な治療プログラムと、各疾患や個人の特性に応じた個別化支援を組み合わせた統合的な治療法の開発が期待されます。

現在、本研究に続く研究として、脳画像検査を用いた新たなランダム化比較試験を実施しています。この研究では、統合失調症と ASD における社会認知改善の神経基盤の共通性と相違を調べ、SCST の効果がどのような神経学的メカニズムによって生じるのかを明らかにすることを目指しています。医療・福祉・地域支援の現場で活用しやすいようにプログラムを整備し、社会認知の困難をもつ人たちの生活機能や生活の質の向上につながる支援として社会実装を進めていくことが長期的な課題です。

4. 研究プロジェクトについて

本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業（18K13345「統合失調症および自閉スペクトラム症への社会認知スキルトレーニング日本版の開発」、23K22364「統合失調症と自閉スペクトラム症への社会認知トレーニングの効果増強：神経基盤の解明」）の助成を受けました。本臨床試験は、京都大学大学院医学研究科精神医学教室が中心となり、まいるクリニックおよび京都府立洛南病院との共同研究として実施されました。

<用語解説>

- *1 社会認知スキルトレーニング（Social Cognitive Skills Training：SCST）：社会認知を改善することを目的とした心理学的治療プログラムです。米国のカリフォルニア大学ロサンゼルス校の研究者らによって開発され、統合失調症患者の表情から感情を読み取る能力などを改善する効果が確認されています。SCST は、大型モニターとパワーポイントを用いて、少人数の演習授業のような形で進められます。治療では、社会認知を改善するスキル（効果的なやり方）が説明され、クイズやゲームを用いてそれらの練習を行います。計 6 回の治療プログラムは、他者の表情から感情を読み取る基本的な内容から始まり、他者の気持ちや意図を推測しながらコミュニケーションする、より高度な内容へと段階的に進みます。今回作成した SCST 日本版では、社会認知の改善を生活機能の向上につなげることを目指して、学んだスキルを日常生活の中で練習するためのホームワーク課題を独自に追加しました。
- *2 疾患横断的治療：複数の疾患に共通する症状や生活上の困難に働きかける治療アプローチです。本研究では、統合失調症か ASD、またはその両方の診断をもつ成人が同じ集団療法に参加し、両疾患に共通する社会認知の困難に対して、同一の治療プログラムを受けました。
- *3 ランダム化比較試験：ある治療を受ける群と受けない群などに参加者を無作為に割り付け、各群の変化を比較する研究デザインです。無作為に分けることにより、参加者の特性や参加姿勢といった結果に影響しうる要因の偏りを小さくし、治療そのものの効果をできるだけ厳密に検証できます。臨床研究における重要で信頼性の高い研究手法です。また、本研究では、心理検査者の期待などが結果に影響することを避けるため、

心理検査者は盲検化され、参加者が介入群か対照群かを知らない状態で検査を実施しました。

- *4 心の理論：他者が何を考え、何を感じ、何を意図しているかを推測する能力です。他者の基本的な感情を読み取る能力などと比べて、より高度な社会認知能力として位置づけられています。本研究では、目元の写真から相手の心の状態を推測する「目から心を読むテスト」を用いて、心の理論の能力を測定しました。
- *5 全般的機能：心理的安定、人との関わり、仕事や学業などを含む生活全般において、その人がどの程度うまく機能しているか、どの程度支障なく生活を送れているかを評価する指標です。「GAF（機能の全体的評価）尺度」を用いて測定しました。

<研究者のコメント>

私は、精神科の医療機関で臨床心理士として勤務していた頃、心理学的支援が ASD をもつ成人の生活機能や生活の質の向上に役立つというエビデンスが乏しいことに問題意識をもち、2014 年に京都大学大学院博士課程に進学しました。博士課程では、ASD における社会認知と生活機能との密接な関係を明らかにし、その成果をもとに SCST の ASD をもつ成人への応用を構想して、この臨床試験を計画しました。そして、博士課程入学から 10 年以上を経て、ようやくこの研究成果を公表することができました。今後も、ASD をもつ成人への効果的な支援方法の確立に向けて、研究を前進させていきたいと思います。（大塚貞男）

<論文タイトルと著者>

タイトル：Different effects of social cognitive skills training in schizophrenia and autism spectrum disorder: A rater-blinded, multicenter, randomized controlled trial（統合失調症と自閉スペクトラム症における社会認知スキルトレーニングの異なる効果：評価者盲検・多施設ランダム化比較試験）

著者：大塚貞男, 大江さつき, 山田純栄, 雲井春佳, 諏訪部亮一, 岩根達郎, 鶴身孝介, 村井俊哉

掲載誌：Psychiatry and Clinical Neurosciences DOI：10.1111/pcn.70106